

吉田正男教授を悼む

学 長 島 田 燦 子

吉田正男教授が古希まで三ヶ月を残して平成十七年十月三日に逝去された。六日の通夜、七日の葬儀に多くの人が集い人情に厚かった教授を悼み立ち去り難い想いであった。

思いおこせば、吉田教授とは昭和四十年四月に開設した本学園設置の文京女子短期大学の専任講師として着任以来の永いご縁であった。「ビジネスと直結した英語英文学」という特色あるカリキュラムの中で、簿記会計と経済学を担当し、四十五年には助教授に昇進し、その後教授となった。

昭和五十二年には学生部長に任ぜられ、多忙な毎日となったが、ふじみ野キャンパスに「経営学科」を新設することになり、開設準備に尽力された。

昭和五十七年に吉田学科長のもとに経営学科が開設され、十年にわたって黄金時代というべき一時代が築かれた。ずい分ご苦労が多かったことと拝察するが、この実績にもとづいて私どもは四年制大学の設立を決意したのであった。

平成三年文京女子大学経営学部開設時には、教授で教務部長として活躍され、ゼミナールを重視した教育で、大学は順調に成長し、教授のゼミナールにも意欲的な学生が集まった。教授の真面目で着実な教育によって実力がつくゼミとの定評があったと思う。その後、図書館長にも任ぜられ、また大学院の開設で院生の教育にも尽力された。修了生の中には税理士やコンサルタントとして活躍している方も多い。この間企業会計に関する論文を多数執筆されている。また、将棋やカラオケをはじめご趣味も豊かで飲めば談論風発の楽しい方であった。途中から糖尿病を患われたり、体調が万全でない中で、いつも誠実に教育にあたっておられた。教授の温かく滋しみにみちた丁寧な教育はだれをもほっとさせたといってよい。

私は大学を代表して心から、「先生、本当に長い間ありがとうございました。」と申し上げ、教授をお支えくださった奥様とご家族のみなさまにも心から御礼を申し上げたい。